

第6学年 社会科学習指導案

1 小单元名

「5. 今に伝わる室町文化」

2 小单元の目標

- ・京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、文化財や地図、年表などの資料で調べ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。(知識・技能)
- ・人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画や、この頃の文化の特色を考え、表現している。(思考力・判断力・表現力)
- ・主体的に学習問題を追究・解決し、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。(学びに向かう人間性)

3 単元構想の意図

本学級は第6学年で男子人、女子人、計31人(特支学級の交流男子児童1名を含む)の学級である。学力の個人差は大きいですが、学習課題に意欲的に取り組むことのできる児童が多い。習熟したことはこなせるものの、主体的に課題に発見したり、解決に導くよう話し合ったり、調べたりすることすることがやや苦手であり、自己表現力に課題が残る。事前のアンケートでは、「歴史に興味がある」90%、「歴史は自分の人生の役に立つ」53%、「中学校での社会科学習に不安を感じている」93%であり、歴史学習に魅力は感じているものの、その必要性や有用性を感じることができず、中学校での学習への不安を抱えていると言える。また、歴史学習に興味はあるが、身近にあるものが歴史に関わっているという思いは持てず、畳や和室、ふすま等が室町時代に生まれた文化と大きく関わっていることはまだ分からない。

本単元では、室町時代について、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の文化の特色を考えたり、表現したりすることを通して、室町時代の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにする。そのことを通して、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養うことを主たる目的としている。

室町時代に発生した文化は建築様式、芸術、大衆文化、芸能と現在に今なお強く残っているものが多く、児童にとっても目にしてきた物が多い。水墨画や生け花など他教科や行事で体験できるものも多く、歴史を肌で感じやすいのが大きな特徴である。また「二本松」という名前も室町時代ゆかりの名称であることから、歴史を遠い昔のストーリーではなく、自分たちの生活を支えるルーツになっていることをとらえやすい。本単元においては、そういった身近にあるものに触れたり体験したりする活動を通して、室町時代の文化の人物や、そこに込められた想いを理解し、歴史は自分の生活の一部であるということを感じさせ、歴史に対する興味関心を高めていきたい。歴史は決して「学習する」「おぼえる」という行為だけでないことを感じることによって、歴史を学ぶことの意義や、中学校においてより詳細に学習することへの不安を払拭させ、小中学校の社会科教育の連結としていきたい。

4 単元の計画(総時数4時間)

時	場面	学習活動(夢中に学んでいる姿)	資質・能力
1	つかむ	銀閣の様子を見たり、金閣と比べたりしながら話し合い、学習問題をつくる。	京都の室町に幕府がおかれた頃の代表的な建造物や絵画などに着目して課題を見出すことができる。(思考・判断・表現力)
2	調べる	水墨画、茶の湯、生け花(別時)の体験を通して、室町時代に生まれた文化が今なお自分たちの生活のルーツになっていることを調べる。	必要な情報を集め、読み取り、水墨画や茶の湯などの室町時代の文化の特色について理解することができる。(知識・技能)
3	調べる	能・狂言・田楽などの芸能文化の鑑賞を通して、その芸能の意味や込められた想いを理解し、現在の生活との関わりを捉える。	必要な情報を集め、読み取り、能や狂言などの室町時代の文化の特色について理解することができる。(知識・技能)
4	まとめる 本時	学習問題について調べてきたことを整理し、室町時代の文化のレポートをまとめる。	学習したことをもとに、室町時代に生まれた文化や習慣と今日の自分たちの生活との関わりを考える。(主体的に学習に取り組む態度)

単元を通して育てたい子どもの姿

身近にある「もの・こと」を見つめ、そこにある歴史的背景を捉えさせ、歴史をストーリーからルーツに転換させることによって、歴史をより身近に感じ、歴史を学ぶことの意義をより深く捉えられる。

5 本時のねらい

学習したことをもとに、室町時代に生まれた文化と自分たちの生活との関わりを考え、表現する。

6 学習過程

	学習活動・内容 (T: 主な発問・C: 児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
つかむ	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1)既習事項をふり返る (知識の定着)</p> <p>(2)銀閣寺の書院造りの写真と学校の和室の写真の共通点を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>東和小学校に残る室町文化をヒストリーチャンネルで伝えよう</p> </div> <p>(3) 本時の活動内容を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の和室が室町文化から継承されるものと言うことを伝える原稿を作成する。 ・ その原稿を番組形式で動画に収め、発表する。 	10	<p>◎ Metamoji を使用し一問一答形式の問題を配付する。</p> <p>○ 比較しやすい資料を提示し、児童が書院造りと現代の和室の共通点を出しやすいようにする。</p> <p>○ 室町以前の建築様式 (生活様式) と書院造りが大きく異なっていることにも触れ、書院造りが現代の日本建築・生活様式につながっていることも理解させる。</p> <p>○ 和室に関わる既習事項 (畳、茶の湯、生け花) にも触れ (掲示し)、原稿の中に取り入れることができるようにする。</p>
調べ	<p>2 発信内容を検討する。</p> <p>(1) 和室のどこをレポートに入れるか、どんな原稿にするのか検討する。(原稿作成)</p> <p>C: ふすまの水墨画も紹介しよう。</p> <p>C: たたみが室町時代から敷かれることになった。</p> <p>C: 床の間も紹介しよう。</p> <p>(2) 動画撮影をする。(iPad 使用) ※個人 or ペア</p> <p>(3) Metamoji に貼り付ける。</p> <p>3 交流する。</p> <p>(1) レポートを交流し合う。</p> <p>(2) 室町文化が今に伝わっていること、自分たちの生活に関わっていることについて話し合う。</p>	25	<p>○ 原稿内容を確認し、助言を加える。原稿の長さは30程度のレポートになるよう留意させる。</p> <p>○ 動画撮影に役立ちそうな資料 (銀閣の写真) を多くそろえておく。</p> <p>◎ Metamoji に貼り付けることによって、資料や活動の記録の共有が簡易になり、記録の蓄積と、多くの人への発信にもつながる。Metamoji の操作が困難な場合は教師が助言する。</p> <p>◇ 学習したことを生かしなが、室町文化が現代に息づいていること理解し、表現しようとしているか (学習態度、原稿、動画)</p> <p>○ 他者との共通点や違いについて気付いたことを発表させる。</p> <p>○ 歴史が自分たちの生活と大きく関わっていることが考えられるようにする。</p>
まとめ	<p>4 本時をふり返る。</p> <p>○ さらに伝えたいことは何かを考え、原稿を作成する。</p>	10	<p>○ 原稿を配付し、番組原稿を作成させる。</p> <p>◇ 歴史を学ぶ意義を捉え、自分の知識を生かして、意欲的に伝えようとしているか。</p> <p>(原稿・ワークシート)</p>

7 板書計画

東和小学校に残る室町文化をヒストリーチャンネルで伝えよう。

書院造り以前は?

- ・ ふすまや障子で仕切られてなかった
- ・ たたみがしきつめられてなかった

学校の和室と書院造りの共通点

- ・ ふすま
- ・ 障子
- ・ たたみ
- ・ 床の間

モニター

現代に残る室町文化

- ・ 和室
- ・ 芸能
- ・ 水墨画
- ・ たたみ
- ・ 茶の湯
- ・ 生け花

室町時代に生まれた文化は今でも私たちの生活に大きく関わっている